

# 【成長戦略研究】 ブドウの早期育成に向けた育種手法の確立(R3~5) 果樹試験場

## 背景・目的

生産者や市場から、皮ごと食べられる黒色系品種の早期育成を強く要望されている。

しかし… 現状の育成方法では、初結実まで最低6年を要し、その後の選抜期間を含めると、品種育成には十数年を要する。  
皮ごと食べる際にネックとなる渋味について、客観的な評価方法が確立していない。



そこで、新たな育種手法として、遺伝子診断と早期結実による「新たな選抜システム」および選抜における渋味の評価方法を確立し、皮ごと食べられる黒色系品種の早期育成を目指す。

## 研究内容

事業費： 6,499 千円

### (1) 遺伝子診断と早期結実による「新たな選抜システム」の確立(R3~5)

				1年目	2年目	3年目		
				経費1,877千円	経費2,344千円	経費2,278千円	R6年(6年目)	R7年以降
		R元年(1年目)	R2年(2年目)	R3年(3年目)	R4年(4年目)	R5年(5年目)		
着色遺伝子診断による選抜※			R元年度交雑 400個体 →100個体	R2年度交雑 700個体(予定) →175個体	R3年度交雑 500個体(予定) →125個体	R4年度交雑 500個体(予定) →125個体		
対照区	従来法(緑枝接ぎ)	交雑	播種 自根苗養成	台木に 緑枝接ぎ 苗養成	圃場定植		初結実 選抜 開始	品種候補 (初結実より5~6年後)
	休眠枝接ぎ法	交雑	播種 自根苗養成	台木に 休眠枝接ぎ 苗養成		初結実 選抜開始 (想定)		
	幼苗緑枝接ぎ法	交雑	播種 台木に幼苗を 緑枝接ぎ・苗養成	圃場定植		初結実 選抜開始 (想定)		
	高接ぎ法	交雑	播種 自根苗養成	成木に 休眠枝を 高接ぎ	初結実 選抜開始 (想定)			

## 期待される効果

- ・ 新品種の育成が加速化される
- ・ 温暖化しても着色が安定したブドウの栽培が可能となる

＜そのほかの効果＞

- ・ ブランド力の向上
- ・ 生産果実の高品質化
- ・ 農家所得の向上



### (2) 渋味評価方法の検討(R3~5)

＜渋味原因物質の検討＞

- ・ 渋味原因物質の分析・特定
- ・ 渋味成分と官能評価との関係性

・ 実生個体の選抜に利用予定



渋味の評価は何を調べるの？  
ポリフェノール？タンニン？  
渋味の原因物質を特定し、官能評価との関連性を調査します。



「どれだけ早く果実を見ることができるか」が、早期品種育成のカギ！

※ブドウの色は幼葉の遺伝子診断で、果実を見なくても苗の段階で確認できるんだ！  
(選抜数は、分離比を3:1とした場合を想定)